

令和3年度第2回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日 時：令和4年2月24日（木）

午前10時～正午

会 場：三木市役所 4階

特別会議室

第2期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第2期創生計画」という。）について、第2回三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。

創生委員会における主な内容は、次のとおり。

説明事項

- ・第2期三木市創生計画 ～KPI集～

概要

令和3年度第1回創生計画策定検証委員会及び総務文教常任委員会においてKPI検証資料に係る意見を受け、資料の更新を行った。今回は、更新したKPI検証資料を基に、資料の変更点や各KPIの進捗状況及び今後の改定案について、委員に意見を求めた。

主な意見

- ・KPI-57「入込客数」については、令和5年夏にJRと自治体及び旅行事業者が連携する国内最大規模の大型観光キャンペーンである「JRディステーションキャンペーン」が開催される。これを機に様々なコンテンツを検討し、目標値を上回ってほしい。
- ・吉川町では、人口減少や空き家の増加が課題となる中で、「山田錦の館」の活性化事業は、非常に重要な事業である。吉川商工会を中心に山田錦の酒米を使ったお酢をつくり、令和4年2月から町内の飲食店10店舗での販売や、料理に使用している。吉川の活性化に向けて、一緒に取り組んでいきたい。
- ・ふるさと納税について、三木市には、ゴルフ、金物、山田錦を筆頭にすばらしい地域資源が数多くある。それらを上手くPRして、ふるさと納税のランキング上位に挙がるような取組を検討してほしい。また、何かインパクトがあるものを数点取り入れるということも視野に検討してほしい。
- ・企業版ふるさと納税を活用しながら、地域課題解決型の官民連携を進めていくべきである。兵庫県と神戸市及び三井住友銀行でスタートアップファンドを立ち上げているので、そちらも必要であれば活用してほしい。

- ・ひょうご情報公園都市整備促進事業について、新規企業誘致による雇用の確保とともに、社員が市内から通勤できるように住居も確保し、三木市の人口増につなげられるように検討してほしい。
- ・新規企業を誘致して、地元の方を含む雇用の場をつくることを期待している。誘致する企業の規模やネームバリューも重要になるので、検討しながら進めてほしい。また、市民に向けても地元で働くことのメリット等を大きくPRしてほしい。
- ・観光客を誘致するためのサイクリングロードの整備について、県外からの観光客を呼び込むためには、ルートの特徴（アピールポイント）、現地までのアクセス方法のPR、安全な走行空間の確保の3点が重要である。
- ・子育て支援について、KPI集に記載があるとおり、子育てに関する悩み等をヒアリングした際によく出る意見は、孤独を感じているということである。その課題に対して、三木市は、支援事業を行っているので、今後も期待している。また、子育てに関する情報が行き届いていないという場合も想定して、情報発信の手段や、様々な相談場所の検討も必要である。
- ・児童・生徒用タブレットの配備について、学力面だけで使用するのではなく、生徒指導や家庭への支援という点で活用することも検討していただきたい。例えば、何か不安を抱えている家庭や、学校に行きにくくなっている児童にタブレットをつないで話を聞くなどを検討してほしい。家庭で支援が受けられない場合や児童自身の不安が大きい場合、まずは先生や友達とつながるために活用することが効果的ではないかと言われている。
- ・児童発達支援センターの整備について、今後整備された際は、利用者数も把握して報告していただきたい。どのように周知して、どれぐらい利用者数があったかということも重要である。
- ・神戸電鉄粟生線活性化事業について、神戸まで通勤されている方の声を聞いていると、料金が安いということもあり、バスを利用している方が多くなってきていると感じる。こちらは、具体的に調べる必要があると感じる。どちらも民間事業者であるため、料金設定に市が関与することは難しいと思うが、そういった点も踏まえて活性化につなげてほしい。
- ・春高・春中ゴルフ大会など、市外から観光客を呼び込む機会が増えているのはすばらしいことである。そこから、いかに市内施設への回遊や地域資源に触れる機会をつくり、市内経済の活性化につなげることができるかがポイントになる。
- ・ナメラ商店街がシャッター通りになってしまった。これまでの歴史やイベント等をPRして、活性化につなげられるよう検討していただきたい。
- ・KPI-16「中小企業サポートセンター相談件数」が増加している。無料で相談等ができることは非常に良いことなので、さらに利用者が増えるよう、引き続き、PRに力を入れてほしい。
- ・KPI-18「金属製品製造業の事業者数」について、増加する目標を設定しているが、現状において、中小企業を増やしていくことは難しいと感じる。

増やすのではなく、合併して規模を大きくするという事業者もあるので、目標については再度検討することが必要であると感じる。

- 資料（KPI集）の形式が良くなった。今後は、検証によって分かった課題にも触れてもらえると、より良いものになると感じる。また、一部のKPI項目の要因分析では、新型コロナウイルス感染症などの外部環境の変化による増減要因が多く感じる。三木市としての取組状況も記載するように意識してほしい。
- コロナ禍で世の中の流れが変化している。その中で三木市が選ばれるまちになるためには、何が特徴なのかを考え、それを磨いていくことが改めて重要であると考えている。
- KPIを設定した当初から、市を取り巻く環境が大きく変わっている。その中でも特に、「DX（デジタルトランスフォーメーション）がキーワードであると考えられる。どの分野においても深く関わるものであると考えている。そこで、各KPI項目にDXの視点を取り入れることで、課題の見え方が今までとは異なるものになると思うので、検討していただきたい。